同 组 表理

慶び申し上げます。 かしい新春をお迎えのことと謹んでお!で生産すること」の大切さを改めて考える 年明けましておめでとうございます。

解とご協力をいただいておりますことに厚また日頃よりJA事業運営に格別のご理 く御礼申し上げます。

ております。 の誕生とともに感染症との戦いの歴史が始 の新型株が次々と発生するなど未だ心を 英知により乗り越える事が出来ると信じ 発見により、その後の様々な感染症に打ち まったと言っても過言ではないでしょう。十 感染した痕が確認されているそうで、人類 ます。人類と感染症の関わりの歴史は古 落ち着けることが出来ない状況が続いてい わりを見せず、ワクチン接種は進んだもの 威を振るう新型コロナウイルスとの戦いは終 勝ってきました。新型コロナも同様に人類の 八世紀以降はワクチンの開発や抗生物質の さて、昨年を振り返りますと世界中で猛 、例えばエジプトのミイラからは天然痘に

に目を向けると、原油や穀物関連の高騰は にも大きな影響を与えています。また世界 ち込みからJAの経済事業及び販売事業 え続けており、直接的には飲食・旅行業界 連 げる原因となっており、新型コロナの発生は 日常生活は勿論のこと営農コストを押し上 が大打撃を受けていますが、消費全体の落 日本そして世界の経済に大きな影響を与 き行動の制限や新たな生活スタイルにより しかしながら、現状では一昨年に引き続 鎖的に様々な影響を及ぼしました。食

と確信しております。 かありますが、いつ日本が食料調達に困る により食料の輸出制限を行った国がいくつ となった時の事を思い出してください。そ 民が必要とし消費する食料は、できるだ 料安全保障の観点からは、「食料を国内」としては、米穀と生乳をとりまく需給環 画する事こそが明るい未来へ繋がっていく もと、組合員ひとりひとりがJA事業へ参 重要性について共感を醸成し、「一人は万 との誇りを胸に、国や国民にその役割と は、生命産業である農業の担い手であるこ!「対話」「人づくり」「JA財務安定」に組合 事になってもおかしくありません。私たち れが食料だったらどうでしょうか?コロナ 発信しています。例えばコロナでマスク不足 けその国で生産する」という考えのもと、 契機となりました。JAグループでは、「国 人のために。万人は一人のために」の精神の 「国消国産」という言葉をメッセージとして

業概況を御覧願います。差し迫った問題 定のJA広報いまかね特別号に記載の事。ご祈念申し上げ新年のご挨拶といたしま 度営農指導基本方針及び、今後発行予 各作物豊作傾向の年となりました。詳し のの、組合員皆様の努力により出来秋は より大小豆の播種は少し遅れましたが、 くは、すでにお配りしています令和四年 雨により大小豆の収穫が進まなかったも 理が大変な年ではありましたが、秋の長 天・七月中旬以降の干ばつにより栽培管 春作業は概ね順調に進み、六月以降の曇 ると、雪解けが早く田植え時期の降雨に さて、昨年の本町農業の状況を振り返

などが挙げられますが、組合員・JA・JA りましょう。 事の実践を通じて協同の力を発揮して参 グループとそれぞれの段階で取り組むべき 境

員の皆さんと共に、役職員が真剣に取り組 支える基盤の強化』の二本柱と定めまし く基本目標を『JA運営の好循環に向けて 月十六日に第三十回 た目標・計画の検証と次期計画策定にも 営の理念を体現する柱ですから、設定し む必要があります。また本年は当JAの第 た。目標の実践には、JAの基本ともいえる 対話の成果を実践』『JA運営の好循環を 催致しました。今後三年間 十二次中期経営計画の最終年度です。 しいかりと取り組んで参ります。 JA・農業をめぐる情勢では、昨年十一 JA北海道大会を開 取り組 んでい 経

す。 員皆様とご家族一同様の御多幸、ご健勝を 努力が実を結び、本年が自然災害がなく 小為大」という言葉の通りこれまでの皆様の 様々な問題がありますが、二宮尊徳の「積 が始まる年と言えるのではないでしょうか。 豊穣の出来秋を迎えられますことと、組合 厳しい冬を越えて命が芽吹き、新しい成長 来て草木が発生する状態を表しています。 ており、十二支の「寅」も壬と同様に、春が 干支の「壬」は生命を宿すという意味をもつ 結びになりますが、本年は壬寅年です。

> お謹 7 を中 げ # 0

代 表理 事 組 合長

令和四

年元日

小 田 島 親 守

常 専 務 務 理 理 事 事 大 仁 場 木 明 倫 夫

理 理 理 事 事 事 内 境 山 崎 4 田 島 哲 仁 祐 哉

理 理 事 事 成 水 田 口 正

理 事 本 塚 晴 看

事 中 山 浩

理

表監 事 事 谷 上 崎 野 義則 敏 之

代

外 監 事 船 木 実

員

監

融 理 部 部 長 長 安 荒 齋]]] 保 英 也

管

農 済 部 部 長 工 藤 裕 之

長 佐 藤 貴

営

経

金